

経済指標ウォッチャー

米国GDP成長率（2020年4－6月期） 大幅低下

個人消費の大幅な落ち込みを受け、過去最大のマイナス成長

GDP（国内総生産）とは？

Gross Domestic Productの略で、国内において一定期間内に新たに生産されたモノやサービスなどの合計金額。その国の経済力の目安に用いられる。

前年同期や前期と比べ、どのくらい増加（減少）したのかを見ることで、国内の経済成長を推定することが可能となる。GDPの増減率を%で表したものを『GDP成長率』と呼ぶ。

2020年第2四半期GDPは過去最大の減少幅に

米国商務省が7月30日に発表した、2020年4－6月期の実質GDP（国内総生産）成長率（季節調整済み、速報値）は、前期比年率32.9%減と大幅低下しました（図表1）。事前予想は、同34.5%減でした。

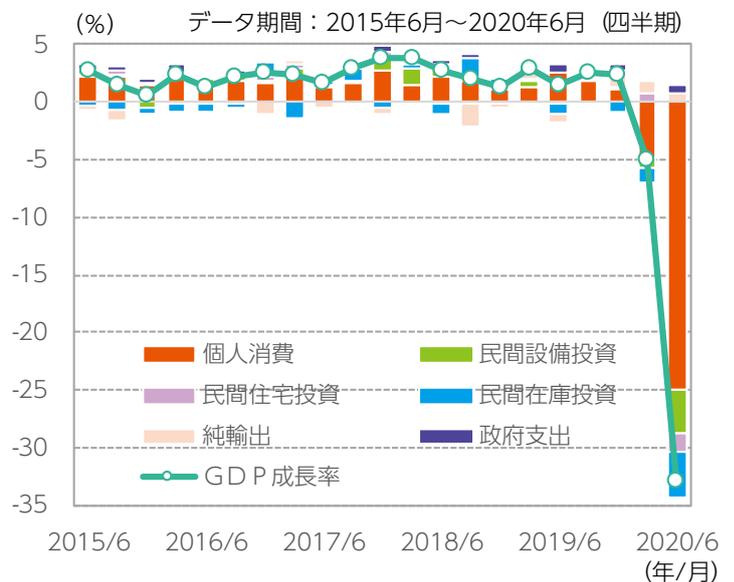
新型コロナウイルス感染拡大を受けたロックダウン（都市封鎖）により、経済活動が停滞したことなどから、2020年1－3月期（同5.0%減）は、2008年10－12月期（同8.4%減）以来、およそ11年ぶりの落ち込みとなりましたが、2020年4－6月期はマイナス幅をさらに拡大させ、過去最大のマイナスとなりました。

個人消費を中心とした内需が大幅に悪化

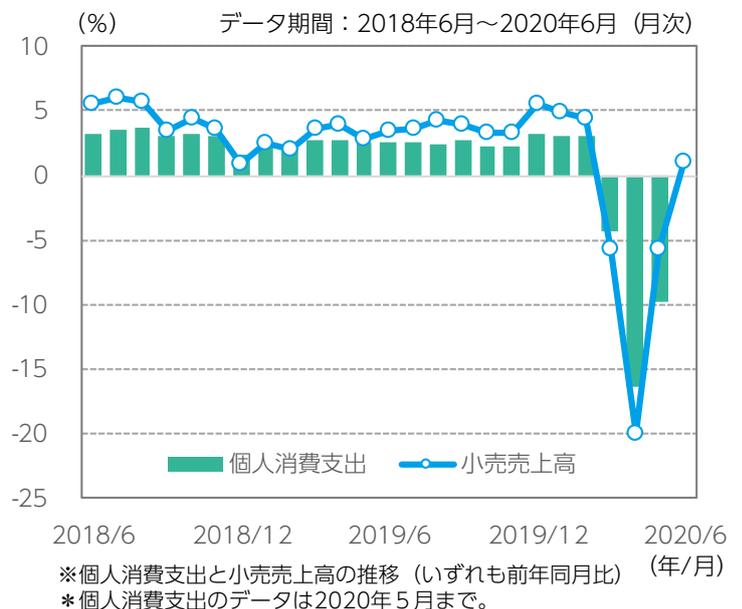
項目別寄与度では、ロックダウンや営業自粛などの影響を受け、個人消費のマイナスが最も大きくなりました。また、感染拡大による景気の先行き不透明感などから、民間在庫投資、民間設備投資もマイナス寄与となり、内需の大幅悪化がGDP成長率を押し下げたと考えられます（図表1）。

経済活動の再開を受け、足元では小売売上高と個人消費支出に回復の兆しが見られます（図表2）。現在、米議会で、7月末で期限切れとなる失業手当の上乗せ措置や家計への給付金などの支援策の拡充について議論されています。しかし、過大な失業給付が復職の妨げになるとの声もあることから、支援規模は縮小する可能性があり、今後の個人消費の回復は鈍くなることが予想されます。個人消費の本格回復までは、米GDPはマイナス成長が続くものとみられます。

図表1：GDPは戦後最大のマイナスとなる



図表2：小売売上高と個人消費支出に回復の兆し



出所) 図表1、2はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>